持続的な拠点形成のポイントに関する報告書

岡山県における生き活き拠点づくりの取組から

（令和5年11月）

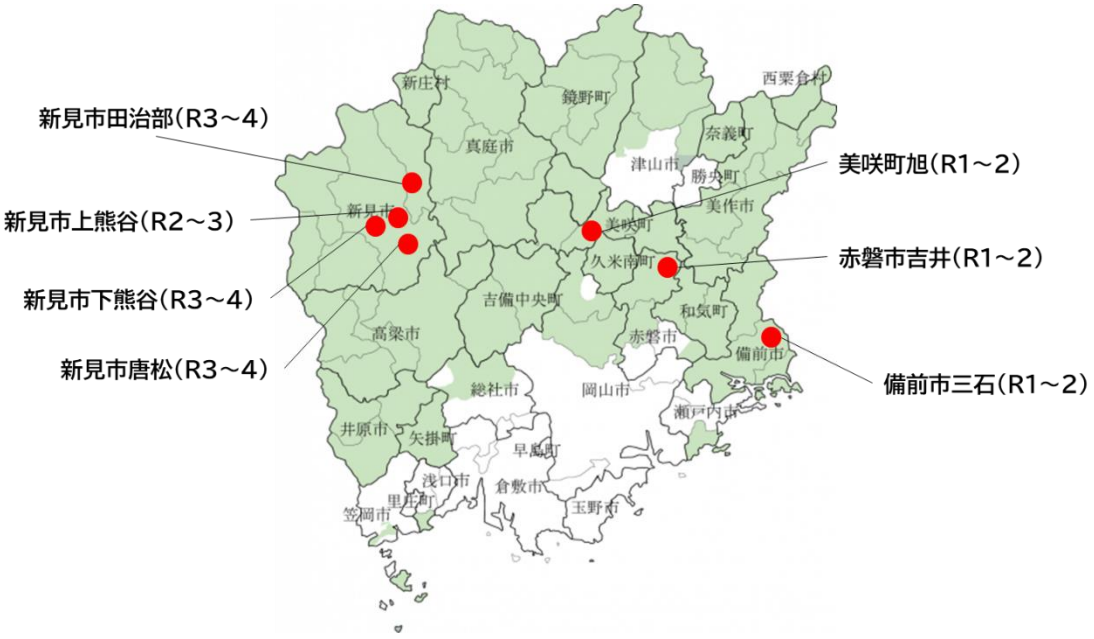
1. 本報告書について

岡山県では、集落機能の維持・確保のため、行政窓口や郵便局、診療所、商店などの日常生活に必要な生活サービス機能を一定エリア内に集め、周辺集落や中心都市と公共交通ネットワークで結ぶことで、地域全体の生活をカバーする小さな拠点を「生き活き拠点」と名付け、その形成促進に向けて支援をしています。

令和元年度から令和4年度の間、「生き活き拠点強化支援事業」において、モデル地区として7つの地区で拠点整備を実施してきました。

この報告書では、モデル地区による拠点事業の実績をもとに、持続的な拠点形成のポイントを整理します。

【岡山県内における生き活き拠点づくりのモデル地区（令和元年度から令和4年度）】



2. 持続的な拠点形成のポイント

ポイント①：地域全体の合意形成

地域における多様な課題の解決に向けた取り組みを、将来にわたって持続的に行う拠点を整備するためには、施設改修や拠点整備自体のみでなく、その地域にとってどのような拠点が必要かについて、地域全体の合意形成を図る過程が重要となります。

具体的には、住民アンケート等により地域全体の声を拾い上げた地域計画[1]等があることと、それを基にどのような拠点を形成するかをまとめること、更に、その計画を実現していく体制づくりが大切です。

近年、地域の合意形成や課題解決に向けた取組の担い手として地域運営組織[2]が注目されていますが、本県のモデル事業でもその重要性が改めて浮き彫りとなりました。拠点形成時から地域運営組織等と行政が連携することで、整備後も地域内の多様な関係団体が関わり、積極的な活用が図られる等、担い手の確保につながります。

ポイント②：市町村が拠点整備方針を明確にすること

市町村において、拠点形成までのステップ、要件及び整備後の管理運営についての方針を明確にしておくこと、その中で、地域運営組織等を、地域全体を代表する運営主体として位置づけることが重要です。

このことにより、市町村と地域の双方が、拠点形成の趣旨やそれぞれの役割について共通認識を持つことで、地域全体が拠点に関わり、活用していくことができます。また、運営資金について明確化することにもつながります。

このような方針を定めるためには、地域に既にある拠点的な機能（例えば公民館で行う交流行事、地区社会福祉協議会等が行う通いの場など）を整理していくことも必要になります。

ポイント③：市町村内の関係課による調整と庁内連携が十分にはかられること

拠点の整備にあたって、地域における課題や、拠点に求められる機能は多岐にわたり、関係する市町村の部署や支援施策も多分野に及びます。また、ポイント②にあるように、地域に既存の機能の整理や統合を検討するにあたっては、市町村の複数の課が

---

[1] 地域内の様々な関係主体が参加する協議組織が定めた地域経営（地域の将来像）の指針

[2] 地域の生活や暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域計画等に基づき、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践する組織

関係する場合があります。例えば、公民館のコミュニティセンター化[3]などの場合には、教育関係、地域づくり関係、財政関係の部署等において調整が必要となることが想定されます。

市町村の庁内での十分な調整や協議の場を設けた上で、拠点形成にあたることが重要であり、拠点の整備後も見据えた、市町村内の部局を横断した連絡体制や連携組織を設置することが理想的です。

※ポイント②、③について、市町村で所属を超えて協議・検討することは難しいケースもあるため、岡山県では、「地域マネジメント・コンサルティング事業（令和3～5年度）」において、拠点整備の前段階にあたる、地域運営組織の組織づくり・地域計画策定等の支援、市町村の庁内連携体制づくりの支援、及び、拠点形成計画策定の支援を実施し、拠点整備までを切れ目なくサポートしています。

[3] 公民館が持つ役割について、生涯学習や社会教育事業だけでなく、地域づくりや地域福祉も含めた多様な活動を展開できる地域の活動拠点として機能できるように移行すること㊀㊀㊀

3. モデル地区における取組事例

（1）備前市三石地区 ： 旧幼稚園を「えんパークみついし」として整備

【拠点づくり・拠点形成計画づくりの概要】

備前市三石地区では、地区の話し合いの場である「三石まちづくり会議」を中心に、自治会、公民館、ボランティアグループ等の各種団体と連携しながら話し合いを進めました。

まず、地区の課題を「買い物・交通」「子ども・高齢者などの福祉」「空き家・耕作放棄」「特産品・交流」「体制づくり・若者の三石離れ」の5つに整理し、地区内ですでに実施している取組をとりまとめました。その後、今後実施すべき取組や、適切な拠点場所について検討を行い、旧三石幼稚園を活用する拠点形成計画を策定しました。

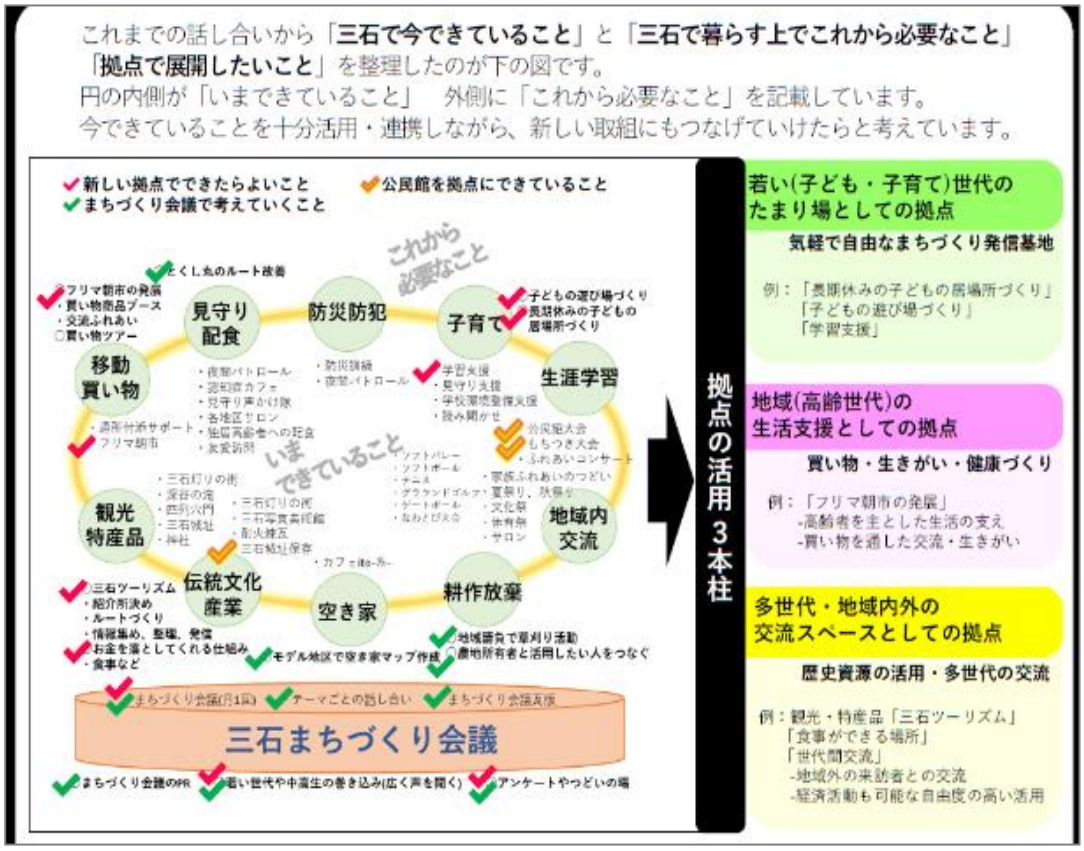
【拠点形成計画の内容】

次の3つの方向性を軸として、「三石まちづくり会議」において、多様な人々が関わることのできる運営体制を構築し、具体的な取組を実施していくこととしました。

①若い世代（子どもや子育て世代）のたまり場としての拠点づくり

②高齢世代の地域の生活支援としての拠点づくり

③多世代や地域内外の交流のスペースとしての拠点づくり



三石地区が作成した拠点形成計画

旧三石幼稚園の活用について関係団体との話し合いのようす

【拠点整備後の活動】

・地元住民である集落支援員を中心とした「多世代交流」のための地域資源を活かした活動

・地域交流や買い物支援を目的としたイベント（通称：えん市）の開催（毎月実施）

・地域内の若手住民（子育て世代）を中心とした中学生のお試し自学スペースとしての活用

えんパークみついしを拠点に実施する「えん市」のようす

中学生のお試し学習スペースのようす

（2）新見市上熊谷地区 ： 公民館を「上熊谷地域づくりセンター」として整備

【拠点づくり・拠点形成計画づくりの概要】

新見市上熊谷地区では、小規模多機能自治[4]を推進する新見市の施策のもと、地域運営組織「支え合う上熊谷をつくる会」が設立され、地域の課題や資源を整理する話し合いをもとに、地域計画である「上熊谷まちづくり計画」が策定されていました。

この地域計画に基づいた、地域課題解決のための活動の拠点を整備するため、地域住民が集いやすい環境が揃っている熊谷公民館を選定し、拠点に必要な機能の洗い出しと整理を行い、拠点形成計画を策定しました。

【拠点形成計画の内容】

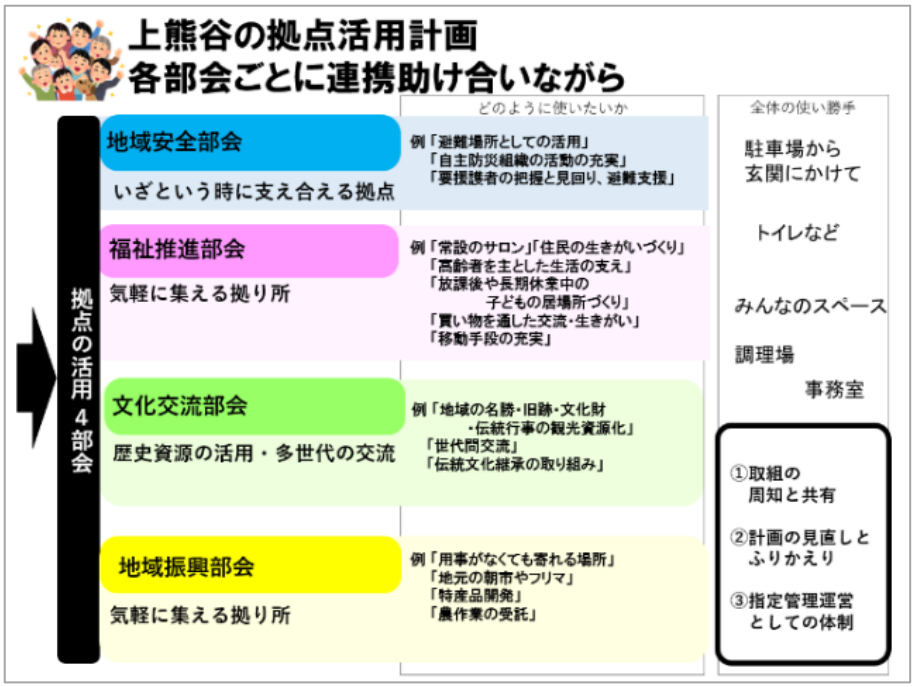
「支え合う上熊谷をつくる会」の４部会の拠点活用方針を下記のとおり決定し、併せて、指定管理者として施設の管理が可能な体制の構築を目指し、地域運営組織として話し合いと情報共有を継続しながら具体的な取組を実施していくこととしました。

●地域安全部会：いざという時に支え合える拠点

●福祉推進部会：気軽に集える拠り所

●文化交流部会：歴史資源の活用・多世代の交流

●地域振興部会：気軽に集える拠り所



上熊谷地区が作成した拠点形成計画

[4] 自治会、町内会、区などの基礎的コミュニティの範域より広範囲の概ね小学校区などの範域において、その区域内に住み、又は活動する個人、地縁型・属性型・目的型などのあらゆる団体等により構成された地域共同体が、地域実情及び地域課題に応じて住民の福祉を増進するための取組を行うこと㊀㊀㊀

拠点計画づくりに向けたアイデア出しと話し合いのようす

【拠点整備後の活動】

・地域全体での子どもの見守りと居場所づくりを目的とした放課後児童クラブの活動

・地域安全部会（防災分野）の防災拠点として避難訓練や個別避難計画づくりの活動

・地域内交流を目的とした各種団体による行事やサロン活動などの取り組みによる活用

地域づくりセンターでの「地区防災計画」についての話し合いのようす

※施設整備後、熊谷公民館は新たに「上熊谷地域づくりセンター」として開所し、「支え合う上熊谷をつくる会」が指定管理者として管理運営を実施しています。

※新見市では、地域の課題解決に取り組む地域運営組織が、地域が定めた将来計画に基づき、住民相互の交流の場として、地域づくり活動、生涯学習活動、地域福祉活動などを行う活動拠点施設を、「地域づくりセンター」として整備をすすめています。